

10月17日(日)、学校創立80周年記念式典が行われました。記念講演として、「はやぶさ2」のプロジェクトマネージャーである JAXA・津田雄一先生にご依頼し、リモートによる講演会を行っていただきました。講演テーマは「成功の扉をひらくために」。生徒にとっても、我々にとっても示唆に富むお話でした。

津田先生は、ご自身の幼少期からこれまでについて触れる中で、「好奇心」が自分を宇宙へと駆り立てた原動力だとして、「好奇心」を大切にしたいということを生徒に伝えていました。また、人との縁によって夢を叶えられたことなども話していただきました。そして、600人ものスタッフを率いたプロジェクト達成の秘訣は、チームが一丸となる「結束力」が何よりも肝心であることを力説されました。ありがとうございました。

(写真は、協創ホールのスクリーンに映し出された津田先生)



「環境が人をつくる。そして、その環境は人がつくる。」

私は親として教師として、そして、校長として目の前の子どもたちに行ってきた(いる)ことは、子どもたちのためにより良い「環境」をつくることに他なりません。使命と言っても過言ではありません。これもご縁なんだなあ、JAXA・津田雄一先生のリモートによる講演を拝聴しながらつくづく感ずるものがありました。

それは、人は成長(あるいは夢の実現)のためには、いかに環境が大切なのかということを実感させられたからです。津田先生は、幼少期にアメリカの航空宇宙センターの見学に行かれたり、好奇心をベースに工作などのものづくりに専心されたりしたそうです。そして、宇宙に関わる仕事に就くため、その学びを深めていったことなど、環境に恵まれ、自ら環境をつくることによって夢を現実のものへ転換していかれました。環境を整えられていったからこそ「はやぶさ2」の成功に結びついていったのでしょう。

ところで、親にとって我が子の環境づくりは並大抵のことではありません。一番は健やかに育つための環境づくりです。が、こんな子になって欲しいあんな子になって欲しいと思うのは親心で、つつい過保護・過干渉になってしまうこともあります。与えることも我慢させることも子育ての重要なポイントです。子どもが反抗期を迎え、このときを親としてどう対応するか。子育ての真剣さ、親としての力量が試されます。決して逃げられません。やがて徐々に自立のときを迎え、子どもは自己肯定感を持って成長したのだろうかと思ひ返ってみることにあります。

「子は親の鏡」と言います。人様に迷惑を掛けぬよう、正直に生きるよう、嫌なことに目を背け

ぬよう、自分の得意を伸ばすよう、夢をもって生きるよう…、子を前に親が率先していく環境をつくっていくこと、それが我が子の最良の環境になっていく気がします。子は親の思い通りに育つのではなく、親のやっているように育っていくのだと思っています。親の背中を見て育つのです。

「先生はどうだったんですか?」という声が聞こえてきます。親として環境づくりをほぼできましたとは言えません。が、努力はしたつもりです。子どもたちに紆余曲折はありましたが、どうにか人様に迷惑を掛けぬよう、まずまず自立している様子を見ると頷けると思っています。ただし、妻には感謝の気持ちでいっぱいです。

学校においても同様のことが言えます。生徒のために、期待に応えられるような環境をつくり、整えているのだろうか。生徒に背中で語れるような努力を丁寧に重ねているのだろうか、と。「学校評価アンケート」を行っていますが、「不十分」だとする回答項目がいくつかあります。何が原因なのか、何が不足しているのかを教職員で共有していますが、生徒・保護者のみなさんが納得できる学校、環境に整えていかなくてはなりません。

以前(vol42)にも記しましたが、教員のキャリアアップを目的として、本校教員全員が目指す「教師像」を設定しました。人間力(高い使命感・高い倫理観・旺盛な向上心・謙虚な姿勢)を土台にし、協創力、進路支援力、学習支援力を獲得する。そして、「生徒の成長のために、共に学び続ける先生」を実践していくことを確認しました。

津田雄一先生は、チームには「結束力」が求められると説かれました。学校としての良き環境づくりの原点はこの「結束力」に集約されます。